

# With ウィズ

～私たちが私たちに楽しく暮らせる地域づくりを  
みんなですすめようという意味を込めています～

西宮市社会福祉協議会 共生のまちづくり課 生活支援コーディネーター

音川（全市）・高井（中央）・金森（鳴尾）・牧（瓦木）・中川（甲東・甲陽園）・高田（北部）

〒662-0857 西宮市中前田町1-23 地域共生館ふれぼの内

TEL(0798)61-1361 FAX (0798)61-1409 kyoseimachi@n-shakyo.jp

## 生活支援コーディネーター かつどうトピックス

### 地域独自のワークショップを開催！

甲東地区では、「居場所づくりが必要」と感じている若い世代の方や、すでに地域で活動している人や団体等がある中で、横のつながりをもっとつっていききたいという思いから『あったらいいな！私の居場所トーク in 甲東』というワークショップを地域の方々と一緒に企画し、小学校のランチルームで開催しました。

グループに分かれて「こうなったらいいな！」という地域への思いを語り合ったところ、参加者の中には初対面の方も多く、「人がいないと思っていたけど、人を知らなかっただけなんだ」という声も聞かれました。

甲東地区ではワークショップをきっかけに、新たな居場所ができただけでなく、地域にとってなくてはならない“人と人のつながり”も生まれています。



生活支援コーディネーターは「地域版人材養成事業」として、人材発掘や多様な人の交流、今後の活動展開を考えるきっかけづくり等、各地域に合わせた目的で、講座やワークショップ等を地域の方々と一緒に企画しています！



## 生活支援コーディネーター訪問記 “ええもん めっけ”

## おしゃべりが絶えないコミュニティバス ぐるっと生瀬

こんにちは！生活支援コーディネーターの高田です。今回は生瀬地区を走るコミュニティバス「ぐるっと生瀬」を紹介します。

移動手段のはずのバス、実はその車内は・・・と乗ってみて驚いたことをお伝えします！

塩瀬・山口圏域  
生活支援コーディネーター  
高田 聖矢



「ぐるっと生瀬」は2015年に運行が開始された、生瀬地区を走るコミュニティバスです。

「人をつなぐ、まちをつなぐ」を合言葉に地域住民組織が主体となり、行政と事業者との三者で協議会を組織し運行しています。また、地域の幼稚園児の乗車体験など、地域活性化に向けた取組みも行っています。

買い物や通院など「ぐるっと生瀬」の利用目的は様々ですが、住民の足だけでなく、車内は住民同士のおしゃべりを楽しむ場になっています。



### 車内はまさに走るつとめ場！！

「おはようさん」「また、あした～」

目的地へ向かう人、自宅へ帰る人が入れ替わりながらもおしゃべりが絶えない時間が続きます。車内はとにかくにぎやか、顔なじみになった運転手が会話に相づちをを打つこともしばしばです。停留所で手押し車と荷物を抱えた高齢者を乗り合わせた人が自然と手助けをする場面も見られます。

今から病院  
にいくんよ

今日は〇〇さん  
乗ってへんねえ



今日は高台から乗る人少ないけど老人会の会合かなんかかな？

共 生 の ま ち づ くり 実 践

その④ 窓(まど)ガラス



梅雨のうっとおしい時期は、より賑やかに！！

手作りの「ふれぼの」看板  
山手幹線から見えますよ！

ギャラリーの作品  
子どもたちが作った  
「おひなさま」

「窓ガラスに物を貼る」ことで、多くの人の参加や新たな活動へと繋がりました。作品が出来上がる経過の中に、多くの人の役割も生み出されています。

共生のまちづくりを実践する地域の常設拠点として、2016年に誕生した「地域共生館 ふれぼの」そこで生まれてくるエピソードをお届けします！

地域共生館ふれぼのは山手幹線に面して立地、南側は全面が窓ガラスという特徴があります。

3年前の3月、館が完成した時には、家具も何もない建物の中に、春のうららかな光が巨大なガラスを通して差し込み、本当にキラキラと美しく輝いていました。

そのきれいな窓に思い切って何かを貼る・・・というのは、カフェスタッフやサポーターのアイデアです。

窓をとおして伝えたいメッセージを、地域で暮らす方々に、毎日、届けています。

あったかエピソード 「倉庫の窓がギャラリーに??」

ふれぼのの小さな倉庫は格子の窓ガラスになっています。開館時、その前には木が植わっており、倉庫は隠れて見えなくなっていました。その植木の場所に地域の方々からいただいたお花を植えてお花畑にしようと、一度、きれいに整地したところ、倉庫の窓ガラスは幹線道路から丸見えに。しかも、お散歩している幼児や小学校に通う子どもたちのちょうど目線の位置になりました。

その窓ガラスを外から見て楽しくなるように、小学生の女の子たちが、いろいろと飾ってくれるようになりました。

大人は腰を曲げないと入れない倉庫に、低学年の子どもたちは立ったまま入って作業します。窓の外からは高学年のお姉さんたちが貼る位置を伝えたり・・・とチームワークもばっちりです。中から貼るので、雨の日でも大丈夫、鯉のぼりなどの季節作品や、時には子どもたちからのクイズがあったりと、自由な発想のギャラリーを立ち止まって見てくれる人も増えました。

この小さな倉庫の窓ガラス、子どもたちからのメッセージの発信基地になりつつあります。



玄関に植えたチューリップ 球根に何色の花が咲くかを当てるクイズも貼り出しています。「芽が出た?」と、声をかけてくれる人も増えました！



今年は貼り紙効果もあり 80人以上の応募！うれしい！！

ふれぼのサポーターが作った巨大サンタさん！実は包装紙などを再利用した作品です。大人も切実な? 「願い事」を書いています！



宝くじがあたりますように